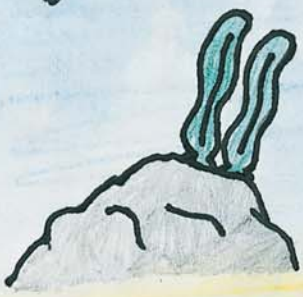
ぼくはヒラメ

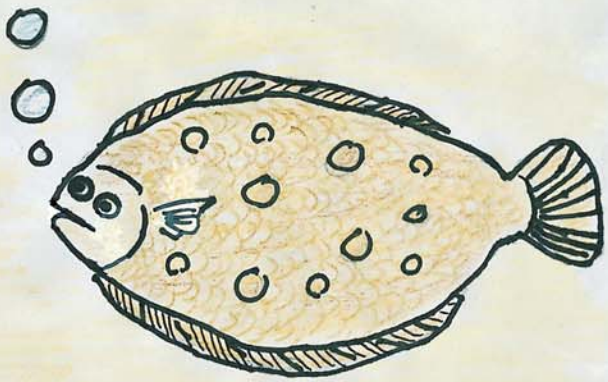
弘道小学校六年　濱崎　彪太

ぼくは　ヒラメ
ぼくはほかの魚たちとは形がちがう
神様は不公平だ
ぼくはなぜ仲間はずれなんだ
ぼくだって
みんなと同じ形がいいと思ってた
だけどぼくには
ほかの魚にはできない特技がある
それは　周りの景色にかくれることだ
その特技でぼくは人気者になった
ある日　海で気持ちよく泳いでいると
ぼくにそっくりな魚に出会った
相手はカレイと名乗った
カレイもぼくと同じ特技をもっていた
ぼくはそれが気に入らなかった

次の日またカレイと会った
ぼくはカレイに
「ぼくのまねはやめろ。」
と言った
その事でカレイとケンカになった
それがきっかけでぼくとカレイは
住む場所が別々になった
カレイは沖　ぼくは浅瀬
それからたがいに会わなくなった
そっくりなあいつは
今ごろ何をしているだろう
沖で　忍者のように
岩影や砂にかくれ
みんなの人気者になっているだろうか

ある日沖まで
あいつをこっそり見に行った
砂にかくれたあいつの目玉が
ヒヒヒとこっちを見ていた





第13回「海の香りのする詩」市内小学生の部で大賞に選ばれた濱崎君の作品です。
少年らしい発見と発想があり、物語性に満ちたすぐれた詩です（選考委員長：渡邉正也氏評）。
背景の絵も濱崎君に描いていただきました。（関連記事を14ページに掲載しています）